



アンケート特集①

# 神戸とわたし

## アンケート

- ① 貴方が「神戸」にお越しになったり、住んでらしたのはいつ頃でしょう。それはどのあたりに何年ほどお住いでしたか。
- ② その頃の「神戸」で一番思い出深いこと、また場所は……。
- ③ さいきん「神戸」にお越しになりましたか。まず最初にどこへ行きましたか。（あればその理由を……）
- ④ 神戸にいらつしやるお友達との「交友録」を……。
- ⑤ 「神戸」の印象で、貴方のとっておきのエピソードは

## 秋田実

- ① 大正の終り頃には、まだ学生時代でしたが、毎日曜、新開地へ洋画の封切を見に行きました。昭和になつてからは、八、九年から十六、七年頃まで、主に夜の神戸ですが、よく行きました。
- ② その頃は外国の古雑誌を探すのが楽しみて、昼間から出かけて方々の古本屋を廻り、日が暮れると、加納町のバア街に行きました。その頃よく行った安くてお美味い店に、たしか大丸の傍に肥つた女の人がいた地下室のベルネクラブというのがありました……。
- ③ 一番の象印は、昭和十四年に生田神社の傍の骨とう品屋で、千八百年代のスイス製の豪華なオルゴールを発見し、欲しくてたまらず、ただ値段が四百円という余りにも高価なので手つけをおいて約束の日に金を作って行ったもの

の、決心がつかず、店の前を行ったり来たり、到頭その日は買わずに大阪に帰り、また数日して今度は友人と一緒に出かけ、友人にも見てもらい、買えといわれてついに買ったそのオルゴールがまた重くて持って帰るのに往生しました。今も、私の宝物でその頃の神戸が懐しく思い出されます。

（作家）



葦原邦子

- ① 現在は神戸にぞくすようですが、生まれてから宝塚をやめるまで26才まで住んでいたのが、阪神沿線の深江です。神戸市内は閑さえあれば行きました。私にとっては最も好きどころです。
- ② 菊水のすきやき。ヤタナカオのハクライの洋品。ミサワのアクセサリー。ユーハイムのコーヒーとお菓子。松竹座の欧州映画、忘れられませんか。そして外国商船の見える波止場の風景と山手の坂道の途中からふり返って見る海の実しさ……。

- ③ 最近は何がなくて行けなくて残念ですが、三年位前に行つたらもとまちが寂しくなつてつまらなくなりまして。それにトアロードも悲しいみたいな気分でした。昔の神戸の方が好きです。
- ④ フランス人のゲリトーさんという、本当に優しいおじさまがいましたが、今いらつしやればおそらく80才位でしょう。ものすごく逢いたい人の一人です。

- ⑤ 松竹座に「たそがれのウキン」を三度、「会議は踊る」を三度、シヤリアビンの「ドンキホーテ」を二度に行つて熱をあげました。青春のカンゲキはみんな神戸からであつたと思います。

（TVタレント）



井上友一郎

昭和十年頃、神戸の諏訪山へ遊びに行き、動物園の近くのホテルに泊まりました。田村泰次郎、十返肇、丹羽文雄氏ら一しよです。トアロードのへんを、うろうろしました。ちよつと外国の都市にいるような気がしたのを覚えています

（作家）

## 井上美奈子

- ① 昭和21年夏、一日だけ。御影の友たちと。
- ② はっきりした記憶がありません。ジュラルミンの家が出来た（る？）というので白っぽい金属が陽に輝いて不思議なムードを漂わしている街を想像しました。
- ③ 去年11月埠頭へ。
- ④ 知っている人は五十嵐恭子さんお一人。
- ⑤ 「舶来」という言葉がケンイを持つていたずつとむかし。小学校へ行つての洋服はいつも父が神戸まで行つて買つてくれました。黄色いフランスししゅう、夢のように薄い布地にどつしりした羽二重のような裏打のしてあるプリーツのいっぱいある洋服など、神戸

と結びつけて、よくおぼえていきます。それにユーハイムのクレーキ。

(学芸通信社編集長)



いソノ  
てルヲ

① ボクの母は女学校時代を神戸ですごしていますので、いまでもなつかしがつております。神戸女学院だそうです。ボク自身はジャズの仕事で、放送やコンサートで司会をしに度々神戸に参ります。

② 神戸に行くたびに洒落た街でこんな所に住んでみたいとも思います。ボクの父と同じように神戸育ちの女性と恋愛し、結婚したいと思います。(独身ですから……)

③ 去年チエミちゃんと二度続けて行きました。一度はアメリカからデルタ・リズム・ボーイズが来たとき、次はチエミのリサイタルで最初に行く所は国際会館です。『神戸っ子』の編集室へ。

④ ジミー原田氏(往年の名ドラマで現在はバンドリーダー)ジャズメン、歌手はほとんどすべて交友があります。ピフテキ屋の『みその』泊る所は中山手の『和香葉』とても家庭的です。

⑤ 栄町のバー『キャバレロ』に田中さんという混血美人がいたけど、今頃どうしているかな?とおきのエピソードになつてほしかったんです。

(音楽評論家)

## 宇井 無愁

① 昭和14、15年、モダン寺裏と山本通三。

② 戦中は長い長い反英運動の行列。その理由がよくわからなかったこと。(昭和14年頃)失名店のグランドビブテキ。戦後はみきこずしの大きなにぎり。

③ 毎年一度は行きます。最初は大阪から行く関係でどうしても阪急三宮駅になります。

④ たくさんいますが、いちいち申し上げられません。

⑤ これもむづかしいおたづねでハガキでは意をつくせません。まあ浴衣がけの下駄ばきでカサをさしても銭湯へ行く西洋婆さんなどはもうと神戸らしい印象といえましようか。東京で繁昌のユーハイムも三宮ゲイサツ前の古色蒼然たる店を思うと今昔の感あり。

(作家)

## 永 六 輔

① 五年ほど前から四季に一度は散歩に行きます。

② もっぱら生田神社の隣の『ユーハイム』でお茶とお菓子を楽しまます。

③ 去年の夏、元町のズーとオクの方の左側にある古道具屋サン(米軍のお古)でコレクションの帽子を買いました。

④ 唯一人田路時計店のワカダンナ。買物のコーチャーです。

(作家)

## 金子 兜 太

① 昭和28年9月から33年1月までおりました。最初は岡本について摩耶山麓に。

② ドンクの生ミルク。ユーハイムの大きく厚いカツプに入つたコーヒ―は忘れられません。うどんなも旨かったですね。それに菊正宗いまでも東京で菊正宗を探して飲んでいました。

③ 長崎から東京の本店へ転勤の途中で、別府から海路神戸港に入り、神戸で一才休息、大阪へ電車で行きました。どうしても神戸に立ちよめたかったからです。さつそくドンクへ行きました。

④ 永田耕衣、赤尾兜子、板垣鏡太郎などですが、永田、赤尾両氏とは俳句についてひんばんに交通しています。

⑤ ありそうでなさそうで、ウフフというところです。

(俳人)



源氏鶏太

① 年に二度ぐらい神戸に行きます。理由は家内が神戸育ちでありその弟たちが神戸に住んでいるため。

③ 私にとって神戸にとまる理由は食物がうまいのと、しやれた物を売っているからです。いつも最初の昼食は『むさし』のとなかつに決めています。夜はえびの『ふじはら』へ行くこともあります。

(作家)

## 京都伸夫

② 南京町——いまから20年前。戦時中で物資不足。南京町へ行く牛肉(味噌漬)を公然と売って





佐多稲子

(音楽評論家)

- ① 宝塚から買い出しに行つた(当時、宝塚少女歌劇団に勤めていた)
- ② 三宮センター街へも「スマドレー」を買いに行った。インスタントコーヒーが珍しかった頃は毎月「ネスカフェ」を買いにセンター街へ出かけた(大変安いので)
- ③ 初めて神戸に行つたのが昭和三年頃だったと思います。トアロードの中頃(9)にあったフランス人のパンションでした。
- ④ パンションの名は、ホテル・ベル・ヴューといったと思います。英人バード氏の奥さんがフランス人でこのホテルを経営し、そこで生れて始めてジンジャーエールをのんだ思い出があります。
- ⑤ 最近は何となく毎月行つてます。モトマチ、何となくブラブラ
- ⑥ 宝塚歌劇団の先生をしていますので生徒さんが二三おります。
- ⑦ 別にありませんが、数年前のキングスアームスが印象に残っています。それからデキサス・ターバンも。



小島正雄

(作家)

- ① 今から三十五年前、兵庫県の相生町にいましたが、長女の出生をひかえて、ベビー服などを神戸へ買いに行きました。元町で買物をしました。それが私の神戸へ行った最初だと思います。その時の思い出は、やはり私にとっては、つよく残っています。
- ② 今年の六月に葦合区神仙寺に病氣療養中のお友達をおみまいに行きました。この女友達村上操さんは広島で原爆反対の活動を熱心につづけていて、そのあけくのけがで長いこと寝ついている人なのです。
- ③ その時、神戸のバスがいい感じの車体だと思いました。神戸をもっとゆつくり歩きたいと思いました。

## 武智鐵二

(作家)

- ① 大正十二年からずっと、芦屋か夙川に住んでいました。学校は甲南でした。
- ② 神戸といえば弘養館のビフテキを思い出します。戦前最高の洋食でした。
- ③ 私の演出した「東は東」の公演に海員会館へ行ったのが最後でした。
- ④ 甲南汽船の田中健一郎君は竹馬の友、狂言の茂山弥五郎翁は私の恩師、香西精先生も私の生涯での恩師です。

## 勅使河原和風

(演出家)

- ① 神戸の風光美やエキゾチックな港情緒が好きで昭和十年頃から見物させてもらいました。
- ② 日本で一番デラックスだった一、二等(三等もあった頃)の急行列車の起点だったこと。



菅原通済

- ③ 終戦後四、五年たつてから行きました。まず元町をたずねました。素晴らしいムードの町でしたから……。
- ④ たくさんありますが男性で小倉敬二さん、女性で岡崎君子さん
- ⑤ まだありません(草月流家元)

- ① 明治四十三年、十六才のとき十六才で家出して満州に渡るとき船に乗った。
- ② 失恋の船出だからボーとしていた。
- ③ たびたび行く。ヒル間は役所や麻薬、売春の協議。夜はお茶屋とナイトクラブ。
- ④ 女友達が多い。彼女等の愛人がいるので名はいえない。
- ⑤ 酔っぱらって大切な宝石を落したら、翌朝とどけてくれた人がある。その宝石はアレキサンドライトという希少価値ある千万円近いもので、とどけた方は人丸さんという神戸きっての美人芸者だ。

## 中西武夫

(随筆家)

- 私は東京に生まれ大学は京都大学でした。大学を出てすぐヨーロッパへ留学しました。一九三一年の祇園祭の日、神戸港から発ちました。三三年樺名丸で帰ってきました。亡き母が発つ日も、帰ってきた日も埠頭で涙ぐんでいた姿が思い出されます。



毛皮の店

**ウエダ**

元町2丁目・TEL③0686

CRAVAT

SKARF



ネクタイの

**元町バザー**

元町1丁目 3-1401



旧制の姫路高校にいたので、休暇には、ログスという古本屋にいつもよっていましたが、変人のおやじさんがいましたが、この娘さんが歌手になり一昨年会いおやじさんの話が出ました。二人の私の息子は、神戸大学に在学中ですから私より神戸っ子と申せましょう。

(演出家)



長門美保

① ほとんど各月位に神戸住吉で音楽教室をしますので教えに行きます。

② 七才の時外国から帰って神戸の日本旅館に着いた時、クツのままで部屋に上ったのと障子を珍らしく感じたことです。

③ 去年十一月二十七日に神戸から帰ったばかり。須磨の辺をドライブするのが好きです。

④ 小学校からセームクラスの現玉井商船社長夫人玉井よし子様と親友で、本当にながにおつき合いです。姉妹の様にしています。玉井邸には弟もいます。その他神戸には弟子もたくさんいます。芦屋、須磨辺りに……。

⑤ 須磨をドライブしていて車が故障し、京都の音楽会に遅れそうになったので、全然知らない方の車にご無理お願いし、しかも車の中でイウニングに着替えやと音楽会に間にあったこと(音楽家)

## 播磨 正一

① 昭和30年5月から33年末まで

神戸に職場をもちました。

② 神戸の食物・女性(食物と女性を共に語るわけではないのですが……)にはそれぞれユニークなキャラクターがあります。京都大阪・東京に住んだ経験がありますが、その点は深く感じております。従って一皿20円のブタマンにも、一皿百円のター焼にも、ワンコース千円のイタリアン料理にもそれぞれにふさわしいパーソナリティを感じさせてくれました。

③ 北野の山手から三宮界限を一望にのぞみました。

④ 神戸にいる友達よりも、大阪の友達に神戸のよさを吹聴することを楽しさを感じております。

⑤ もしお金があれば神戸に家を作りますね。

(デザイナー)

## 淀川 長治

① 20年前です。

② 元町、新開地、海岸通り。

③ 昭和36年の夏に行きました。オリエンタルホテルと舞子ヴィラ

④ たくさんの友人があつて、とても一言には申せません。

⑤ 神戸に入港したクイリツジ号の船室でチャップリンにインタビュしましたことです。チャップリンが「モダン・タイムス」を完成したあとです。

(映画評論家)



城山三郎

①② 昭和二十二、三年ごろ、東灘区に下宿していた神戸大学の友

人を訪ねた。坂道にまばらに街の灯があつて踏切があり、また、まばらに街の灯があつて踏切がある。あつ、これが神戸だと思つた。

③ 三十六年五月、六甲。山頂の静かなホテルで執筆しようとおもつて。

⑤ 行者堂なるところまで散歩しようと思つて茶店のおやじさんに道を訊いたところ、自殺志望者と早合点され、あやうく駐在へ電話をかけられそうになつた。

(作家)

## 茂木 草介

① 昭和五年頃。

② その頃、大阪から一人でフラフラと行きました。港とかゴタゴタした三宮付近など、それから山手の外人街など大阪人の私には神戸は現実離れのしたロマンの街でした。

③ 最近阪神間に住んでいるので「梅田」へ出る程度に「三宮」へも出ます。どこにいてもあてはありません。竹中郁先生が「あまから」誌に書いていられるような旨いもの屋えちヨイト入ることもあります。

④ いまも昔も神戸に友人はいません。いないからいいのだと思ひます。

⑤ 昔、私が喋れない英語を用い相手のイギリス水夫が喋れない日本語を用い口論をしかけたことがありました。訳が判らなくて困りました。いま思ひ出して訳が判らないのです。

(作家)

## 升田 武雄

① 昭和27年秋から35年春まで会下山麓に2年、本山に5年、青谷

に1年。

② ある年のクリスマススイブ、悪友一同に愚妻まで加えバーを飲み回ったことがある。愚妻、愚夫ともごメイトイ、車を拾って帰途についたものの、アパートの近くで道が判らなくなり、遂に下車小高い国鉄の路線を歩いてヘトヘトになってわが家にたどりついたことあり。バカな話。

③ 毎月一回須磨の本社へ。なるべく夜着くようにアンバイして、まっすぐ三宮の酒くさい店へ。

④ 悪友そろいでいわぬがハナ。ただ一人の例外は、西宮に住む作家の山田赤麿氏。これはほんとの聖人。

⑤ 結婚式の直前(私自身の)、理髪店の定休日であることを発見ヒゲ面をタクシーに乗せて、開けている店を探がしかけ回ったこと(ラジオ関西東京支社長)



森繁久彌

私は甲子園に、兄が須磨に育った。私が兄を訪れ、兄が私と一緒に甲子園にくる時に私たちは神戸の街をあるくのである。そして歩きつかれるとメリケン波止場について白い大きな船をいつまでも、あかず眺めることがならわしだった。その頃は須磨の姉が、ユーハイムや、弘養館のピフテキをご馳走してくれるのが最大の喜びだった。その神戸の街に近頃は、阪本知事を訪ふことが、たのしみになった。神戸の紳士は、5時から後

は、大阪の人の様に仕事の話しをたのしい酒のなかにはさまない。おおよふなのだ。これが神戸っ子の矜度だろう。

(映画俳優)

## 森沢彌一郎

① 葦合区脇浜で生まれ3つぐらいまで神戸育ち。神戸新聞社会部から神戸で生活し31年暮から35年4月まで葦合区神仙寺通一に住んでいた。

② 文句なしに神戸新聞社会部、怒られっぱなしで育てられ、抜いたり抜かれたりがすべてだったから。思い出の事件はビストルギヤング原田熊雄事件。神戸新聞の社内野球で編集が初優勝した磯上球場(野球キチガイだから)は忘れられない。好きな場所は海。

③ 神戸新聞社会部でいっしょに働いた連中、中学時代の友人で熊内の劉外科の劉善郎、神戸大教授の赤川浩爾、同谷内俊弥、川崎製鉄の中条敏雄、ラジオ関西の坂上豊の諸兄。

④ 大阪の北野中学へいったが、当時北野と神戸一中とは、何かにつけてよきライバルだった。それだけにカーキ色の制服、白ふろしきの中一スタイルには妙な対抗意識を感じたもの。若かりしころから神戸といえあのカカーキ色が忘れられない。社会部に入ったらすぐに地図をくれる。まず地理を覚えろというわけだ。まもなく大倉山へいくので車を……とおそろおそろ市警から電話したところ「このオタフクめ」と一かつくらった「山へいくのに歩けとは殺生な」と思ったが、地図を見れば山は山でも目とハナのところ、どな

られるのが当然の話。かくてかけ出し記者は「神戸はネコのヒタイみたいな町」と覚えた。以来この「ネコのヒタイ」を毎日のようにかけ上がり、またかけ下りして仕事もし、遊びもしたものだ。

(デイレースポーツ

・東京本社編集局長)



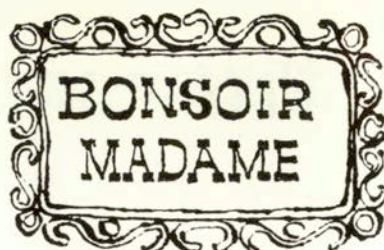
若杉 慧

① 昭和二年秋から十九年秋まで(第一期)、昭和二十三年夏から二十六年春まで(第二期)

昭和二年十月か、十一月の某日船で中突堤に着いたのが朝の四時すぎ、屋台のナベヤキウドンというものを食べ、就職先の神戸小学校にいくとまだ門が閉っていて叩けど、呼べど誰も出て来ない。すこし明るくなりやと動き出した市電に、目的なく乗ると、上筒井でおろされてしまった。(當時上筒井が終点)商大の方へ坂をのぼりウロウロしていたら、ウラナイ師の看板あり、入るとねぼけ面の男が出て来て神主のようなコロモを羽織って私の前に座り、易を見てくれた。君は神戸に来て運動勢は開けぬ。但し若杉學もしくは若杉静と改名したら、池中の竜が雲を得て天に昇るがごとく成功疑いなしといった。五十銭払って出た。當時私の生活は甚だ絶望的であった。

② 以下については(広告めいて恐縮だが)さいきん「須磨・明石・六甲の旅」という本を書きました。(作家)





マダム コンパニワ

# クラブ 阿 似 子

気っぶのいいマダム。芸者生活十二年、マダム業二年のベテランとは、ちょっと想像がでないほど初々しい感じだ。隣りの若奥さんにいうように、そっと「阿似子ちゃん」と呼びたい。

母子二代、姉妹そろっての花隈育ちだが、その苦勞が全く見えなほど苦勞が多かったのか。ノン氣に育ったためか。五つになる一人娘を心の支えに、派手さのなかに渋い和服姿の小柄な体から、笑顔が絶えることは考えられないほど。

まあ金に恨みはないのだろう。東門通の一路東、「なきさ」の北六、七軒目にある店は、セット三つであとはスタンドという細長さながら、スポットライト一つにしても非常に繊細な神経が通っている。天井近く、とりどりの花がふんわり浮かんで、雑踏を忘れさせてくれることは請け合い。女の子も美人揃いではないが、若さと個性にあふれた十人衆で、口説いてふられても腹が立たない。ママの魅力のせいだろうか。

この阿似子ちゃん、ゴルフもすれば、嵐山近くの車折神社の信者でもある。神戸の財界人は、花隈以来のえにしてよく顔を見せるが「金融関係の方々には、とくにお世話になっています」ということだ。

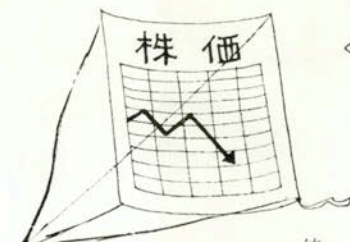
(ナン)



# 新春マンガ ①

たかはし もう

上がれ上がれ



値上がり正月「かずのこです」



トラ年酔 っぱらい保護車



ひんくこーなー



トラの話を書けというご注文でしたが、トラをピンク・コーナーに閉じこめようというのがどだいムリな注文。それに、大トラともなれば、女っ気をきらいます。眼中にアルコール以外何もないというのが大トラ族の真価でして。そこでトラはトラでも「トラの巻」の語でご勘弁ください。

さてモイロの方の「トラの巻」といえば日本では四十八手ということになっております。先ごろグレコのシャysonを聞きに行きましたが、そのときの歌に「お人好しの恋」というのがありましたフランス語はわかりませんが、何でも義理にしかオツトメのできない亭主を歌ったもので、その中で何んとかいう島へ行って「三十六手」でも覚えてきたらどう?と細君がいうそうです。司会者のA氏が「日本では四十八手ですよ」といったら、グレコがビツクリしていたとか。

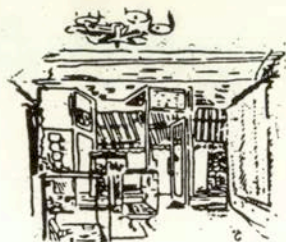
さて、バーで二人の男がもめています。「恋のテクニクは四十二手だ」「いや違う四十二手だ」「いや四十一手さ」「四十二手さ」どこまで行ってもキリがないので「よし、それでは初めから並べてみよう。それなら文句はあるまい」「よからう」

そこで「まず第一に普通のボーイズがあるだろう」「アッ、それを忘れていた」

(T)

## KOBEKKO SHOPPING GUIDE

明るく美しい  
神戸のトップショップで  
楽しい冬の  
ショッピング



元町二丁目

③

2  
9  
9  
6



中林寅一商店  
神戸・三宮・生田筋  
TEL ③ 0238





御婚礼お仕度  
ピンパーム

*Maxine*

マキシン美容室

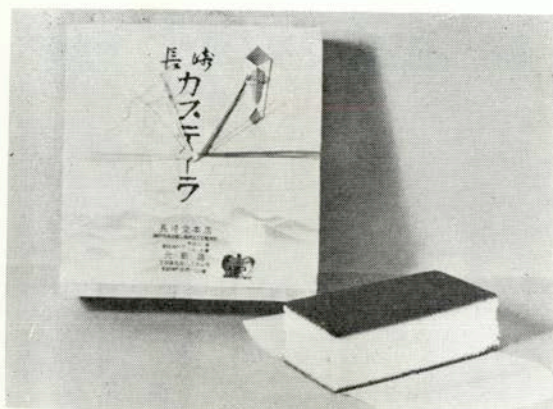
三宮神社前・TEL③4917



センスあふれる  
べつ甲の専門店

元町一丁目

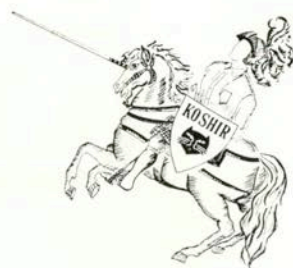
**太田鼈甲店**  
③ 6195



いつでも贈って喜ばれる  
風味豊かなカステラ!  
〈元町6丁目〉

**長崎堂本店**  
本店7—4402元町4—4130  
直売店 神戸大丸・阪急

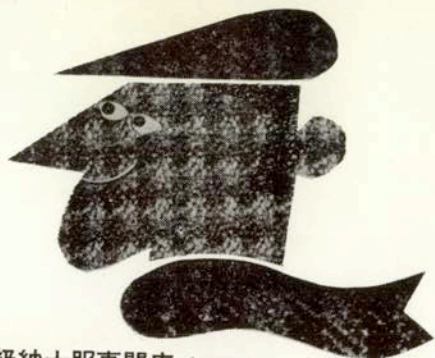
YE AULID SHIRT SHOPPE



よろず御襯良仕立處

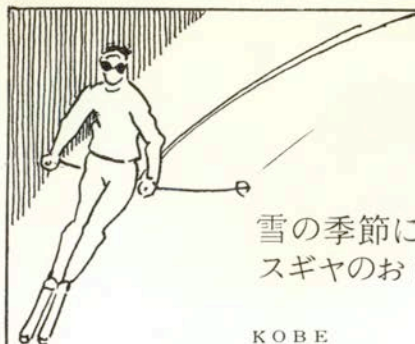
**神戸シャツ**

神戸大丸前 TEL③2168



高級紳士服専門店 (神戸クーポン歓迎)  
 オーダーメイド・イージーオーダー・レディメイド  
**神戸テラー**

生田区北長狭通2 (省線高架通50) ③2817



雪の季節に  
 スギヤのおしゃれ!

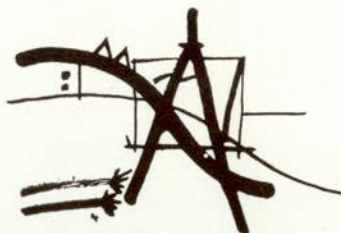
KOBE

**SUGIYA**

ハンカチと下着の店

トア・ロード TEL ③3436

額縁絵画・洋画材料  
 室内工芸品

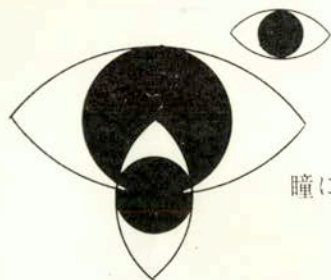


**額 製 積 末**

三宮・大丸北  
 トア・ロード  
 ③1309・6234







瞳に美しさを保つ  
スポーツに  
美容に  
現代の科学が生んだ  
コンタクトレンズ

## 国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一(三宮駅前)  
神戸国際会館内 TEL(22)8161・8361

One Month Plan Beauty!

# SONY

高級洗顔ソニー  
(酵素卵白含有)

洗顔のたびに 美しくなる  
若々しくなる

¥500 ¥250 (化粧品店にあります)

## ユーア化学研究所

明石市大蔵町6丁目



# マルゼン

神戸市生田区三宮町1丁目(生田筋)  
TEL. ③ 0212・5454